

平成25年度文部科学省委託事業：青少年教育施設を活用した国際交流事業

「信頼と交流の輪を未来へ ～国際交流プロジェクト～」

活動実践報告書



平成26年2月

財団法人育てる会

はじめに

本会では、平成24年度及び平成25年度の二カ年において、以下のような目的で国際交流事業を実施しました。

ベトナムダナン市周辺は、400年ほど前から日本との交易を行っており、多くの史跡等が残されている。そのため、ダナン市周辺の青少年は、日本及び日本人に対して高い関心をもち、日本語を学ぶ者が多くなっている。一方、モノが氾濫する日本の都市化社会で生活する日本の青少年は、生きる力が低下しつつある。

そこで、日越双方の中学生・高校生・大学生が、日本の青少年教育施設等を活用して「自然と共生する住民と交流しながら、伝統文化や先進技術にふれる体験」を行うと共に、ベトナムにおいては「寝食を共にしながら、産業や文化の体験」を行うことにより、双方の青少年が意欲を高めつつ信頼関係を醸成することで、次代を担う国際的な人材の育成を図る。

上記目的により実施した平成24年度の取り組みでは、特に「長期間にわたり寝食を共にした活動」を展開することによって相互の絆が深まり、終了後も続く交流によって深い信頼関係が醸成されつつあります。

平成25年度においては、前年度の成果をふまえ、今後東アジアの中核を担う次世代リーダーを養成するために、次の項目を国際交流事業の柱に据えて実施しました。

- 「主体的に交流事業に取り組む青少年を育成（計画から実践まで主体的にかかわる）する」
- 「中学生リーダーの養成（高校生・大学生へと持続させていく）を図る」
- 「サブリーダー、リーダーの育成と活用（高校生・大学生の交流活動経験者の活用）を図る」
- 「社会人サポーターを育成（交流相手国内の海外派遣者、在住者の活用）する」

その結果、交流活動経験のある大学生が主体となって活動プログラムを検討し、活動フィールドや施設の下見及び調整に参加し、事前準備の強力なサポート役となりました。また活動実践においても中学生や高校生をリードして、円滑な集団生活や交流活動の推進に力を発揮しました。

更には、平成24年度に本事業に参加した高校生や大学生が、授業の合間や休日を活用して活動に参加したことにより、更なる交流の継続が図られました。

本会では、この実践を広く一般に公表することによって、次代を担う国際的な人材の育成に寄与したいと考えています。

本報告書が青少年の体験活動及び国際交流活動の推進の一助になれば幸いです。
最後に本事業の実施にあたり、支援及び指導いただいた関係者に厚くお礼申し上げます。

平成26年2月



財団法人 育てる会
理事長 青木孝安

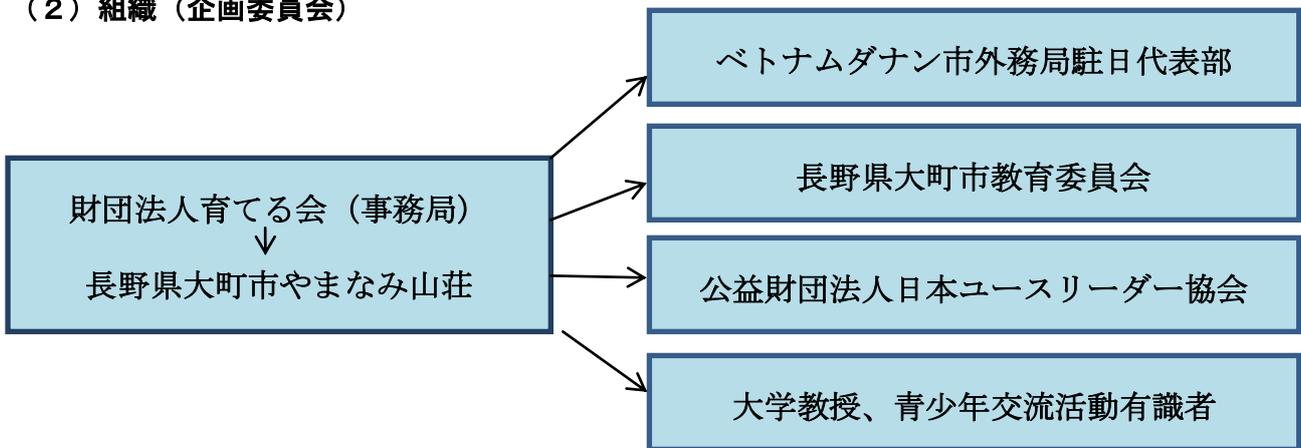
1. 事業概要

(1) 事業の目的

- ①「人と人、人と自然、都市と農山漁村」を理解する青少年の育成
(自然と共に生きる生活文化活動実践)
- ②主体的に交流事業に取り組む青少年リーダーの育成
(計画段階から実践活動の進行まで主体的にかかわりリードする)
- ③長期的展望を見据えた次世代リーダーの育成
(中学生から養成をはかり、高校生・大学生へと持続させる)
- ④サブリーダー、リーダーの育成と活用
(高校生・大学生の交流事業経験者の活用をはかる)
- ⑤社会人サポーターの育成
(交流相手国内企業勤務等の海外派遣者、在住者の活用をはかる)

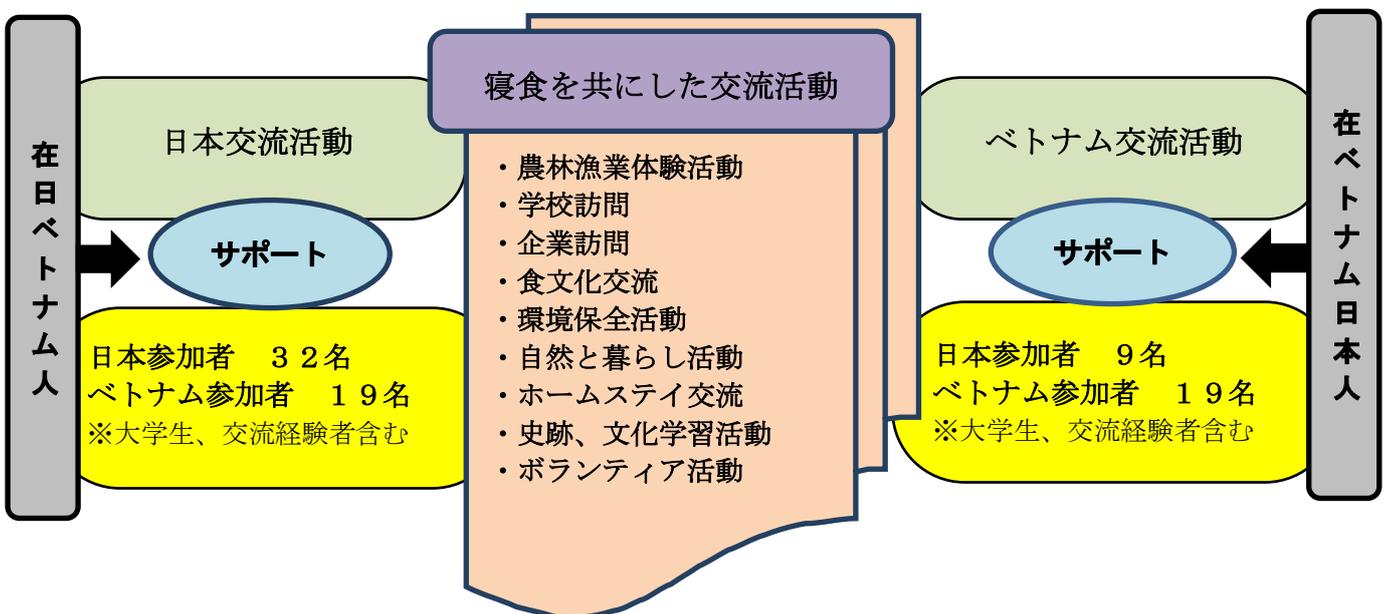


(2) 組織 (企画委員会)



(3) 交流活動

- ①日本交流活動：8月18日～8月30日【12泊13日】
 - ・ベトナムの中学生、高校生、大学生 19名 引率者3名
 - ・日本の中学生、高校生、大学生 32名 他1日交流者35名
- ②ベトナム交流活動：12月21日～12月30日【9泊10日】
 - ・日本の中学生、高校生、大学生 9名 引率者2名
 - ・ベトナムの中学生、高校生、大学生 19名



2. 夏休み日本交流活動の特徴（8月18日～8月30日）

（1）参加者（大学生）が主体となったプログラム企画と運営

過去の国際交流実践により、円滑な活動推進と次世代リーダー育成のためには、青少年自らがプログラム企画、運営にかかわることが円滑な活動展開となり、大きな成果を得ることができると考え、事前に経験者が集まり、プログラム内容を協議し準備をすすめた。また、実践活動においては青少年のリーダー的役割を果たす日越双方の大学生が中心となり、活動前夜等にミーティングを行った。



学生企画会議

（2）日本在住のベトナム人講師のワークショップ開催

招聘国の参加者が来日した日に、日本企業に勤務する方や日本に留学する大学生を招いて、日本の生活文化、マナー、日本社会、企業、学校について理解する機会を設けた。



ワークショップ

（3）2泊3日の自炊交流キャンプによる深い交流

過去の実践により「開始時に双方の青少年の交流を深めるプログラム導入が重要」との反省から、対面式後の2日目～4日目にキャンプ場での自炊生活体験活動を取り入れ、準備から後片付けまで一緒に汗を流すことにより、短時間で互いを理解し深い交流となるように配慮した。



和紙の日越共同作品

（4）長期間活動を共にすることにより学びあう

過去の実践から、招聘国参加者が長期間にわたって日本の青少年と寝食を共にすることが重要であると考え、来日から帰国するまで、日越青少年ができるだけ一緒に活動できるように計画した。



農家ホームステイ

（5）日本の農山村文化及び産業の体験

農家民宿にホームステイをし、農山村の暮らしや農業体験、地域住民との交流が図れるようにした。また、和紙づくりを行い、一人ひとりの作品を張り合わせ、記念ポスターを作成した。

（6）食文化交流

大町市青少年リーダーとの交流キャンプや八坂青少年野外活動センターの生活では、日本料理（焼き鳥、お好み焼き、カレー）やベトナム料理（春巻き、おこわ、フォー）作りを体験できるようにした。



木崎湖食文化交流



自炊キャンプ生活



中学校交流

3. 夏休み交流活動実践（東京都、長野県茅野市、松本市、大町市）

（1）活動場所／活動期間／参加者数（人）

活動場所	活動期間	日数	ベトナム参加者	日本参加者	日本交流者
東京都内	8/19～8/21	2泊3日	19	15	
長野県茅野市、松本市	8/21～8/23	2泊3日		15	
長野県大町市	8/23～8/29	6泊7日		32	35(1日間のみ)
東京都内	8/29～8/30	1泊2日		15	
合計			19	32	35

※各期間の人数はその期間の参加者数、合計は全期間の個体数

（2）ベトナム：参加者の年齢別男女構成

年齢	男子	女子	合計
14歳以下	2	10	12
15～17歳	2	1	3
18歳以上	1	3	4
合計	5	14	19



北八ヶ岳登山

（3）日本：参加者の年齢別男女構成

年齢	男子	女子	合計
14歳以下	11	2	13
15～17歳	8	5	13
18歳以上	5	1	6
合計	24	8	32

（4）活動プログラム

月日	活動内容	宿泊
8/18	ベトナムダナン空港～ハノイ空港へ移動～深夜ハノイ空港発	飛行機機内
8/19	成田空港着バス移動、代々木公園散策、ワークショップ	国立オリンピック記念青少年総合センター
8/20	東京ウォッチング、日越参加者対面式、交流のつどい	
8/21	中央道移動、八ヶ岳牧場、青少年の森、檜の箸づくり	茅野市 青少年の森
8/22	北八ヶ岳登山、野外自炊交流会、縄文の森フリー散策	
8/23	松本城、市内ウォッチング、大町市役所訪問、やまなみ山荘着	大町市 やまなみ山荘
8/24	大町市木崎湖キャンプ、カヌー、木崎湖散策、食文化交流会	
8/25	大町市内スーパー買い物、農家ホームステイ、暮らし体験	農家
8/26	農家周辺散策、フリー活動、交流夕食作り、文化交流会	大町市 やまなみ山荘
8/27	大町市内中学校交流会、和紙づくり、大根、野沢菜の種まき	
8/28	選択活動（釣り、博物館めぐり、探検、集落めぐり）温泉	
8/29	黒部ダム見学、東京へ移動、まとめの会、お別れ会	オリンピックセンター
8/30	東京～成田空港～ベトナムハノイ空港～ダナン空港	

4. 夏休み交流活動の成果と課題

(1) 成果について

- ①昨年度参加者した大学生4名が交流プログラム内容の検討に加わるとともに、実践活動では高校生、中学生をリードし交流活動の円滑な推進に大きな役割を果たした。また、ベトナムの参加経験者や大学生も補佐的役割を果たし、次代の国際交流を担うリーダーが育ちつつあることを実感した。
- ②この交流活動をきっかけに大学生のKさんは、日越国交40周年記念の日本で実施したイベント（ベトナム大使館前や代々木公園で実施したベトナムフェスティバル）のキャンペーン親善大使としてステージに登壇している。また、昨年度の交流活動に参加したベトナム学生のTさんは、今年日本に留学してベトナム学生のワークショップやまとめの会に参加しサポートしている。
- ③日越参加者がオリンピックセンターで合流した後、茅野市青少年の森での二日間は、キャンプ場での自炊生活となった。食材や消耗品の準備等で忙しかったが、この活動によって双方の青少年の距離がぐっと近くなり、以降の日程が円滑に進んだ。
- ④活動期間中、6日間を過ごした大町市やまなみ山荘（一年間の山村留学生や青少年の自然体験活動施設）の「規則正しい生活」「物を大切にする」「食べ物を感謝していただき無駄にしない」という生活や食育を重視した取り組みは、日越双方の青少年に刺激となったようである。
- ⑤日越双方の青少年を、一緒に農家ホームステイさせたが、都市化社会で生活する彼らにとってインパクトの大きい体験となった。もっと長い期間、農家宅で過ごしたいという意見が多かった。

(2) 参加したベトナム青少年の意見

- ①日本人のルールやマナーを大切にすることを学んだ。
- ②どこも整理整頓ができて清潔に保たれている。
- ③文化、生活様式、ふるまいなど多くの学習ができた。
- ④八ヶ岳登山は苦しかったがよい経験になった。
- ⑤ホームステイでお世話になった家族にもう一度会いたい。
- ⑥和紙でつくった作品がダナンに届いたのがうれしい。
- ⑦日本語があまりできなかつたので、今一生懸命勉強している。
- ⑧日本に留学したい。

交流活動評価	ベトナム	日本
得るものが多かった	94%	66%
まあまあだった	6%	34%



農家ホームステイ

(3) 参加した日本青少年の意見

- ①何事にも積極的に明るいベトナムの参加者から刺激を受けた。
- ②ベトナム料理や伝統芸能を知ることができた。
- ③食事マナーや食事の好みの違いにとまどった。
- ④ベトナムの中・高生と一緒に活動できて視野が広がった。
- ⑤長期間一緒に生活し活動したので深い交流ができた。
- ⑥自然体験や農業体験が乏しいベトナムの学生が多く驚いた。

(4) 課題

- ①昨年度はベトナム招聘者対象の事前説明会には、日本の担当者が訪問して説明したが、本年度はこの説明をベトナムダナン市外務局に依頼したものの、事業の目的や日本の生活ルール等の徹底が不十分であった。
- ②日本、ベトナム双方の参加者に共通していたのは、活動への取り組み姿勢に差異が見られたことである。日本の参加者は全国各地から参加しており、一同に会して事前ミーティングをする機会をもつことができなかったため、今後は映像（DVD等）を活用した研修を考えていきたい。
- ③和紙作りが好評であった。今回制作した和紙のポスターはベトナムダナン市の新庁舎（現在建設中）に展示される予定である。今後は、交流事業の記念植樹等を行い、その森の成長や活用の様子をネットで公開する「電子媒体を活用した集いの広場づくり」（仮称）を検討したい。
- ④交流活動に参加して「学ぶことが多かった」と回答したのは、ベトナムの青少年94%に対して日本の青少年は66%にとどまっており、受け入れ青少年の成果につながる事前の動議付け、プログラムづくりや交流の在り方について再検討する必要がある。

5. 冬休みベトナム交流活動の特徴(12月21日~12月30日)

(1) ベトナム交流経験者が主体となったプログラム企画

ベトナム活動の企画、調整は過去の交流活動経験者が日本の担当者とともに活動場所及び施設の下見調整に同行し、プログラム内容を協議した。また、実践活動においては日本の青少年受け入れを担当し、運営に深くかかわり、円滑な交流活動推進の担い手となるよう役割を与えた。



海辺食文化交流会

(2) 日本交流経験者が主体となったプログラム企画

ベトナムの学校等で予定している文化交流会や海辺の食文化交流会の内容については、ベトナムとの交流活動経験のある大学生が主体的に取り組めるよう事前協議の機会をつくり、教材や食材の確保も委ねた。



中学校で福笑いゲーム

(3) ベトナム派遣前の事前研修

昨年度の交流事業がきっかけで本年度日本に留学しているベトナム学生の協力のもと、ベトナム語やベトナム語で唄う日本の歌の事前研修会を実施した。また、日本の踊り等についても研修を行い、日本人として、日本の文化をより理解して活動に参加できるように配慮した。

(4) ベトナム在住日本人講師のワークショップ開催

ベトナム交流活動2日目には、ベトナム在住の日本人を招いてワークショップを開催し、ベトナムの日本企業や日本人の暮らしぶり、学生の様子等について学んだ。



在ベトナム日本人との懇談

(5) 日本企業を訪問

ベトナムに製造拠点を持つ日本の食品会社を訪問し、説明を受けながら工場内を見学して、私たちの食が海外との深いつながりに依存していることを、現実味を持って学習した。

(6) ホームステイを通じたベトナムの生活体験

日本の交流活動に参加した学生宅等にホームステイをし、直接ベトナムの生活に触れると共に、交流を深めることができた。



ダニフーズ工場見学

6. 冬休み交流活動の実践（ダナン市、フエ市、ホーチミン市）

（1）活動場所／活動期間／参加者数

活動場所	活動期間	日 数	日本参加者	日本引率者	ベトナム参加者	ベトナム交流者
ダナン市	12/22～12/26	4泊5日	9	2	10	20（1日間のみ）
フエ市	12/26～12/28	2泊3日	8	2	14	
ダナン市	12/28～12/29	1泊2日			25	
ホーチミン市	12/29	1日				
合 計			9	2	30	20

※各期間の人数はその期間の参加者数、合計は全期間の個体数

（2）ベトナム：参加者の年齢別男女構成

年齢	男子	女子	合計
14歳以下	2	8	10
15～17歳	2	6	8
18歳以上	5	7	12
合 計	9	21	30

（3）日本：参加者の年齢別男女構成

年齢	男子	女子	合計
14歳以下	1	0	1
15～17歳	3	2	5
18歳以上	2	1	3
合 計	6	3	9

（4）活動プログラム

月 日	活動内容	宿泊
12/21	成田市で事前研修会（ベトナムやプログラム内容、文化交流会等）	成田市内
12/22	成田空港～ホーチミン空港経由ダナン市移動、再会セレモニー	ダナン市内
12/23	食品工場視察、ダナン歴史資料館学習、在越日本人との懇談会	
12/24	タイソン中学校交流会、農業体験、ダナン市内散策	
12/25	ホームステイ宅へ	ホームステイ
12/26	フエ市に移動、史跡学習、ティエンム寺、ホー川クルーズ	フエ市内
12/27	市場見学、史跡学習、フエ市内の暮らしウォッチング	
12/28	ダナン市に移動、海辺に移動、交流会、夕食づくり	ダナン市内
12/29	ホーチミンへ移動、戦争証跡博物館、クチトンネル、市場視察 深夜ホーチミン発	機内泊
12/30	成田空港着、解散式	

7. 冬休みベトナム交流活動の成果と課題

（1）成果について

- ①日本の大学生が積極的に参画して、活動開始前に連絡を取り合ったり、打ち合せを何度もするなどして準備をすすめてきた。ベトナムでの活動においても中学生や高校生をリードし、さらに各プログラム準備等で率先して動き「次世代を担うリーダーを育成する」というに目的を達成することができた。
- ②ベトナムの活動初日から最終日まで、日本の交流活動に参加したベトナムの経験者が、会社や学校を交代で休みながらホスト役となり、ダナン市内やフエ市内を案内してくれた。
また、宿泊や食事の予約もお願いすることができた。日本の「おもてなし」の心をベトナムで見る思いがした。ベトナム学生たちの奔走に深く感謝したい。

- ③初めてベトナムを訪問し、ベトナムの青少年と深く交わり寝食を共にすることによって、「日本では気づかなかったベトナム青少年の良さを発見できた」。また、ベトナムの人々の暮らしや学校、道路、公園、市場等をみて「恵まれすぎている日本の暮らしについて深く考えさせられた」という感想を聞くことができた。歴史博物館や戦争証跡博物館の学習を通して、日本の平和の有難さを知ることができたのも大きな成果であった。
- ④「日本で交流していたときは、ベトナムの学生が好き勝手に動いていたことが印象に残り良いイメージで受けとめられなかったが、ベトナムに行ってベトナム人はとても優しくて手先が器用でとても賢いことを知った」という中学生の感想は、日本の交流活動では気づかなかったことが、相互交流によって得られるものが大きいことを実証している。次代を担うリーダー養成のために、日本の青少年の海外での交流体験の機会をさらに増やしていきたいものである。
- ⑤交流活動をきっかけに facebook 上での交流が平成24年の夏休み交流活動実施以降盛んになっている。今年度ベトナムに派遣した日本の青少年9名のアクセス状況を調べてみると、ベトナムの友達（お互いが友達と認める）の割合は全体で15%を占めている。facebook 調査期間中に誕生日を迎えたMさんへの「バースデーメッセージ」は、19名中9名がベトナム側参加者によるものであった。交流活動の持続拡大が計られていると受け止めたい。

	友達	書込み	コメント	いいね
日本参加者の facebook 総数	2,105 件	21 件	44 件	449 件
上記のうちベトナム人とのやりとり	312 件	11 件	25 件	197 件
割合（ベトナム人／総数）	14.8%	52.4%	56.8%	43.9%

※facebook 上の日本とベトナム交流活動参加者のアクセス状況(2014年1月1日～1月31日)

(2) 参加したベトナム青少年の意見

- ①うまく日本語で案内できなかったので日本語能力をアップしたい。
- ②この交流プログラムが毎年開催されるように願う。
- ③これからもこの交流プログラムに何らかの形で貢献したい。
- ④日本の学生の通訳ができるように日本語を学びたい。
- ⑤日本でのホームステイを今でも思い出す。
- ⑥日本の活動にまた参加したい。



(3) 参加した日本青少年の意見

- ①ダニフーズ見学、日本人の価値観や働き方が違うベトナム人とうまく調和し指揮し運営することの大変さを学んだ。
- ②ベトナムの家族の一員となり生活を共にした中で、家族愛、女性のたくましさ、働いている姿に刺激を受けた。
- ③現地日本人との交流会で話を聞いて、自分もベトナムに住みたいと思うようになった。
- ④戦争の怖さとチーム力をもって前にすすむことの大切さについて学んだ。
- ⑤ベトナムはまだ国としては若く、これからの成長が期待できる国であることがわかり、社会人になったらビジネス面での交流をしたいと思った。
- ⑥古くからある文化と伝統を重んじ、それを生活に活かしていくことの大切さ。

(4) 課題

- ①今後この活動を継続し充実させるためには、ベトナム国内に青少年が集い、寝食を共にしながら活動できる施設の確保が必要である。また、交流に参加したベトナムの学生は、学習面ではしっかり取り組んでいるが、自然体験や農業体験等は全くと言っていいほど体験していないことが気がかりである。次世代を担う国際交流のリーダーを育成するためには、多様な体験活動の場を提供していかなければならない。
- ②この二年間の交流はベトナムダナン市外務局が窓口となり実施してきたが、これからは学校や企業、ベトナム在住日本人、ボランティア団体、農業や漁業団体等も含めた交流活動推進の組織づくりをすすめ、事業を展開していく必要がある。
- ③ベトナムでは日本語を学ぶ青少年が多くなっており、交流活動の継続を強く求める声が強い。そのため本会では夏休み期間等に大勢の子どもたちの受け入れをしている山村留学施設にボランティアとして受け入れができないか、今後検討していきたい。

8. アンケート調査による事業の評価

(1) はじめに

本調査は日本及びベトナムの青少年が、6日～12日間にわたって日本の青少年教育施設に滞在して寝食を共にし、その地域に住む人々と交流しながら、様々な自然文化体験活動を行うことにより、双方の青少年自身にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的としている。

調査は開始日と終了日前夜に実施した。調査対象者は5日間以上寝食を共にした日本及びベトナムの学生である。

日本の学生（8日間以上15名、5日間17名） ベトナムの学生（13日間19名）

(2) 調査対象者の属性について

① 居住環境について(単位：人/%)

居住環境	日本	ベトナム
都市部	15(47%)	10(53%)
都市郊外	14(44%)	8(42%)
地方	3(9%)	1(5%)
合計	32(100%)	19(100%)

② 兄弟について(単位：人/%)

兄弟	日本	ベトナム
1人っ子	8(38%)	4(21%)
2人兄弟	12(38%)	12(63%)
3人以上	12(24%)	3(16%)
合計	32(100%)	19(100%)

居住環境は日本、ベトナム共に都市部及び都市郊外がほとんどである。兄弟については、日本は1人っ子と2人兄弟がそれぞれ38%、ベトナムは2人兄弟が半数以上(63%)を占めている。

③ 3泊以上のキャンプ(単位：人/%)

経験	日本	ベトナム
ない	0(0%)	12(63%)
1～3回	10(31%)	5(26%)
4回以上	22(69%)	2(11%)
合計	32(100%)	19(100%)

④ 日本や長野県への旅行経験(単位：人/%)

経験	日本	ベトナム
ない	4(12%)	18(95%)
1～3回	13(41%)	1(5%)
4回以上	15(47%)	0(%)
合計	32(100%)	190(100%)

親から離れて3泊以上のキャンプ経験が4回以上あるのは、日本の青少年の69%に対してベトナム青少年は63%がそのような経験がないと回答している。また、ベトナム参加者19人中の18人が日本への渡航が初めてである。

⑤ 自分の特性について(日本32名中、ベトナム19名中)

自分の特性について	日本	ベトナム
外で遊ぶのが好き	19(59%)	15(79%)
自分は活発なほうだ	25(78%)	13(68%)
友だちは多いほうだ	25(78%)	18(95%)
基本的な生活習慣が身に付いている	20(63%)	18(95%)

ベトナムの青少年は外で遊ぶのが好きで(79%)、友だちは多く(95%)、基本的な生活習慣が身に付いていると自己評価している。(95%)

日本の青少年は外で遊ぶのが好きで(59%)、基本的な生活習慣が身に付いている(63%)と自己評価している。

⑥ 活動参加のきっかけ(日本32名中、ベトナム19名中)

活動参加のきっかけ	日本	ベトナム
自分からぜひ参加したいと思った	14(44%)	13(68%)
家族、友だち、先生からすすめられたので参加しようと思った	1(3%)	6(32%)
山村留学センターと一緒に生活するので	17(53%)	

(3) 参加者の意識変容について

本事業の効果を測定するために「生活面」、「心の持ち方、行動」、「友人関係、社会性」、「自然への関心や農山漁村に対する意識」、「相手国の青少年及び相手国のイメージ」、「今回のプログラム」の6つの分野に分け、各分野10項目（全60問）について聞いた。

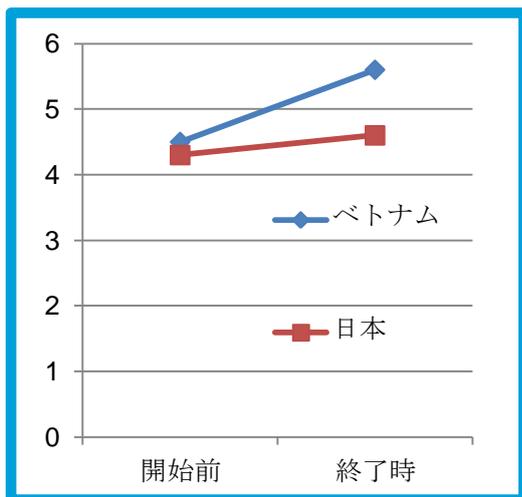
変化の測定は6段階で行い、活動開始時と終了時の差を求めることにより、参加した青少年の意識変容について分析をすることにした。

(プラス評価：あてはまる—6—5—4—3—2—1—あてはまらない：マイナス評価)

①全体集計結果 (注：増減は開始時と終了時を比べた増減値を表している)

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
生活面について	4.0	5.3	+1.3	4.4	4.8	+0.4
心の持ち方、行動について	4.0	5.6	+1.6	3.9	4.2	+0.3
友人との接し方	4.4	5.6	+1.2	3.9	4.3	+0.4
自然への関心、農山漁村に対する意識	4.3	5.4	+1.1	4.4	4.7	+0.3
相手国及び相手国の青少年のイメージ	5.3	5.8	+0.5	4.5	4.9	+0.4
今回の活動プログラム	5.0	5.8	+0.8	4.4	4.8	+0.4
平 均	4.5	5.6	+1.1	4.3	4.6	+0.3

(注：相手国青少年のイメージと活動プログラムの項は、夜の交流のみであった日本人17名を調査から除外した)



ベトナムの青少年は開始時の全体平均が4.5、終了時が5.6となり、1.1ポイント+に転じている。

日本の青少年は開始時の全体平均が4.3、終了時が4.6で0.3ポイント+に転じている。

総じてベトナム青少年の変容が大きい。

6つの項目別にみると、ベトナムの青少年は「心の持ち方、行動について」の変容がもっとも大きく、1.6ポイント+に転じている。一方日本の青少年は、どの項目も変容傾向に大きな変化が認められず0.3~0.4ポイント+に転じている。

②生活面の変容について (開始時からみた終了時の増減について)

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
早起きである	4.5	5.8	+1.3	3.9	4.7	+0.8
自分から進んで手伝いをする	4.4	5.3	+0.9	3.7	4.2	+0.5
食事の好き嫌いをしない	4.4	4.9	+0.5	4.7	5.1	+0.4
食事に感謝して粗末にしない	4.5	5.2	+0.7	5.0	5.2	+0.2
洗面、歯磨きをきちんとする	5.8	5.9	+0.1	5.2	5.2	+0.0
荷物整理がきちんとできる	3.9	4.9	+1.0	4.1	4.1	+0.0
掃除、洗濯、食器洗いができる	3.5	4.8	+1.3	4.5	4.9	+0.4
車に乗らずに長い距離を歩く	2.5	5.2	+2.7	5.1	5.2	+0.1
夜更かしせず早寝する	3.7	5.7	+2.0	4.2	4.8	+0.6
携帯電話が気にならない	2.9	4.9	+2.0	4.0	4.5	+0.5
平 均	4.0	5.3	+1.3	4.4	4.8	+0.4

生活面についてベトナム青少年は、「長い距離を歩く(2.7)、早寝する(2.0)、携帯電話が気にならない(2.0)」が大きく+評価となっている。一方、「洗面や歯磨き」はほとんど変化がなく、「食事の好き嫌い」や「食事を粗末にしない」は0.5~0.7ポイント+評価にとどまっている。

③心の持ち方、行動の変容について（開始時からみた終了時の増減について）

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
自分からすすんで行動する	3.9	5.7	+1.8	3.8	4.0	+0.2
嫌がらずに良く働く	3.9	5.6	+1.7	3.7	4.0	+0.3
小さな失敗を恐れない	4.2	5.5	+1.3	3.9	4.1	+0.2
失敗しても立ち直るのがはやい	4.1	5.6	+1.5	3.9	4.2	+0.3
割り当てられた仕事はしっかりする	4.5	5.8	+1.3	4.6	4.5	-0.1
前向きに物事が考えられる	4.6	5.8	+1.2	4.2	4.5	+0.3
とても痛い怪我をしても我慢できる	3.1	5.6	+2.5	3.8	4.3	+0.5
身体を動かしても疲れにくい	3.2	5.1	+1.9	3.5	3.6	+0.1
苦手なことも克服しようと努力する	3.8	5.6	+1.8	4.1	4.2	+0.1
暑さや寒さに負けない	4.3	5.7	+1.4	4.0	4.4	+0.4
平 均	4.0	5.6	+1.6	4.0	4.2	+0.2

心の持ち方や行動の変容については、ベトナム青少年はどのすべてにおいても1ポイント以上+評価になっている。また、日本の青少年は総じて大きな変容は認められないが、平均で0.2ポイント+評価になっている。

④友人関係、社会性の変容について（開始時からみた終了時の増減について）

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
誰にでも話しかけることができる	4.3	5.7	+1.4	4.0	4.7	+0.7
人の話をきちんと聞くことができる	4.8	5.2	+0.4	4.3	4.7	+0.4
誰とでも仲良くできる	4.2	5.3	+1.1	4.2	4.6	+0.4
多くの人に好かれている	4.3	5.4	+1.1	3.5	4.1	+0.6
自分のことが好きである	4.3	5.9	+1.6	3.1	3.4	+0.3
人の心の痛みがわかる	4.5	5.7	+1.2	3.9	4.3	+0.4
誰にでも挨拶ができる	5.3	6.0	+0.7	4.3	4.5	+0.2
人のために何かしてあげるのが好き	4.3	5.6	+1.3	4.1	4.4	+0.3
嫌なことは嫌とはっきりいえる	4.2	5.2	+1.0	3.1	3.6	+0.5
その場にふさわしい行動ができる	4.2	5.7	+1.5	3.9	4.2	+0.3
平 均	4.4	5.6	+1.2	3.9	4.3	+0.4

友人関係、社会性の変容について、ベトナム青少年は質問内容によって変容の値に大きな相違がみられる。「自分のことが好きである(1.6)、その場にふさわしい行動ができる(1.5)、誰にでも話しかけることができる(1.4)」が大きく+評価となっている一方で、「人の話をきちんと聞くことができる」は、0.4ポイントの評価にとどまっている。

日本の青少年でいちばん変容が大きかったのは、「誰にでも話しかけることができる」が+0.7ポイントの評価であるが、総じて変容の幅は大きくない。

⑤自然や農山漁村に対する考え方の変容について（開始時からみた終了日の増減について）

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
花や風景など美しいものに感動する	4.6	5.6	+1.0	4.6	5.0	+0.4
季節の変化を敏感に感じ取る	3.6	4.2	+0.6	4.3	4.6	+0.3
暑い時、寒い時にそれなりに楽しむ	4.3	5.8	+1.5	4.9	5.0	+0.1
農山漁村には店が少ないが気にならない	4.0	5.7	+1.7	4.6	4.5	-0.1
お年寄りとお世話学ぶことが多い	5.1	5.4	+0.3	4.2	4.7	+0.5
自然や生き物との共生の大切さを学んだ	4.5	5.7	+1.2	4.5	4.9	+0.4
将来、農山漁村に移り住みたい	2.8	4.9	+2.1	3.6	4.1	+0.5
将来、休日を活用して手助けをしたい	4.2	5.3	+1.1	3.9	4.2	+0.3
農山漁村により私たちの暮らしがある	5.3	5.8	+0.5	4.5	4.9	+0.4
不便な環境が人と人の絆を強くする	4.3	5.7	+1.4	4.5	4.8	+0.3
平均	4.3	5.4	+1.1	4.4	4.7	+0.3

ベトナムの青少年はホームステイ等の好印象や山村の活動や自然の美しさにふれたことが影響してか「将来農山漁村に移り住みたい」が2.1ポイントも+評価になっている。

「お年寄りとお世話学ぶことが多い」の項目では、唯一日本側がベトナム側の増加を上回っていた。このことは、たとえ一泊とはいえ少人数でホームステイし、ベトナムの大家族生活に触れることは、核家族が多い日本社会の中で生活する青少年にとって、大きな刺激になったようである。

⑥交流相手国及び青少年に対するイメージについて（開始時からみた終了時の増減について）

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
礼儀正しい	5.1	5.7	+0.6	4.1	5.2	+1.1
嫌がらずによく働く	5.3	5.8	+0.5	4.0	5.0	+1.0
食事マナーができています	5.6	6.0	+0.4	4.4	4.9	+0.5
自然や文化を守り活用している	5.7	5.9	+0.2	5.0	4.6	-0.4
言葉づかい、服装、頭髪が乱れていない	4.5	5.6	+1.1	4.8	5.0	+0.2
とても親切である	4.7	5.6	+0.9	4.4	4.8	+0.4
森や山や海など自然がきれいである	5.2	6.0	+0.8	4.5	4.9	+0.4
伝統料理を大切に守る国、国民性	5.5	5.9	+0.4	4.8	4.4	-0.4
機会があれば相手国に留学、働きたい	5.5	5.8	+0.3	4.5	5.1	+0.6
相手国の青少年と交流していきたい	5.7	5.8	+0.1	4.7	4.9	+0.2
平均	5.3	5.7	+0.4	4.5	4.9	+0.4

ベトナムの青少年は日本及び日本の青少年に対するイメージが終了時には5.7ポイントと極めて高く評価をしている。「食事マナーができています」「森や山や海など自然がきれいである」等は全員が評価の上限値（6.0）で評価している。一方、日本の青少年はベトナム料理に対する期待が大きかったためか「伝統料理を大切に守る国、国民性」が-0.4ポイントと辛口評価となった。

但し、冬休みの派遣活動でベトナムで交流活動を体験した9名は、終了後のアンケートで、辛くて多少口に合わなかった料理があったが、「美味しかった」「家庭料理を大切にする」「毎日おいしい物をいただき食べ過ぎてしまった」と高く評価している。

⑦活動プログラムに対する関心、満足度（開始時からみた終了日の増減について）

	ベトナム			日本		
	開始	終了	増減	開始	終了	増減
日本の青少年体験活動施設	5.3	5.8	+0.5	4.3	4.6	+0.3
東京都内めぐり、ウォッチング	5.1	5.9	+0.8	4.0	4.7	+0.7
茅野市青少年の森施設と自炊活動	5.2	5.8	+0.6	3.9	4.7	+0.8
2000メートル以上の山登り	4.3	5.3	+1.0	4.1	4.5	+0.4
黒部ダム、温泉、アルプス	5.2	5.9	+0.7	4.5	4.6	+0.1
大町市民との交流キャンプ、湖の活動	5.1	5.9	+0.8	4.6	4.8	+0.2
農家ホームステイ、生活、食文化	5.2	5.9	+0.7	4.7	5.1	+0.4
相手国の青少年との交流	4.9	5.9	+1.0	4.5	4.9	+0.4
記念品、ものづくり、農作業	4.9	5.9	+1.0	4.3	4.8	+0.5
美術館、松本城、観光施設、街歩き	5.1	5.9	+0.8	4.6	5.1	+0.5
平均	5.0	5.8	+0.8	4.4	4.8	+0.4

ベトナムの青少年はどのプログラムも終了時には評価の上限値に近い高評価をしている。その中でも2,000メートル以上の山登り（北八ヶ岳登山）は苦しかったと終了後50日のヒアリング調査で振り返る者多かった。

9. 企画委員の総括会議での意見 ※抜粋

（1）実績報告書作成にあたって

- ①成果として日本、ベトナム双方の青少年が何を学んだか浮き彫りにしてほしい。
- ②ベトナム青少年の日本招聘だけでなく日本の青少年を派遣しているのだから、招聘段階と実際にベトナムへ行った後の感想を比較してほしい。
- ③リーダーシップが育ったかという視点で日越双方の青少年の動きを具体的に報告して欲しい。
リーダーシップを発揮した学生はいたのか？役割分担はあったのかについても知りたい。
- ④招聘だけでは成果が見えにくい。実際に交流相手国に行くことが大切だと思うので、ベトナムに派遣された学生のデータが一番有効であり活用すべきである。
- ⑤ベトナムの交流事業は昨年度に引き続き二年目の事業という事で、昨年との違いは何なのか、そこを明確に報告書に活かしてほしい。
- ⑥活動後も facebook 等を活用して交流を図っているか調査して報告書にまとめてほしい。

（2）今後の国際交流活動について

- ①時間的経過がどのような影響を及ぼすのか半年後、一年後、二年後というようにフォローアップ調査をしてほしい。
【例】
 - ・交流後も facebook 等を活用した交流の追跡調査
 - ・交流で作ったベトナム料理や日本料理を、自身で作って食べているか
 - ・双方の国に関する本を読んで理解しようとしているか
 - ・双方の国の言葉を勉強したりしているか
 - ・招聘及び派遣活動でプレゼント交換があったようだが、その後プレゼントはどうしているのか
- ②国際交流事業を今後も実施していくうえで大切なことは、安全に対する配慮と信頼できるカウンターパートナーをしっかりと確保することに尽きる。
- ③事務局の報告だけでは、交流の実際が十分把握できないので、企画委員も派遣させてはどうか。

企画委員会委員

氏名	職業
明石 要一	千葉大学名誉教授
青木 厚志	財団法人 育てる会常務理事
金藤 ふゆ子	文教大学教授
西川 治	横浜国立大学法科大学院生
橋井 弘治	長野県大町市教育委員会教育次長
原 雅夫	大智学園高等学校校長
堀添 英人	公益財団法人 日本ユースリーダー協会常務理事
レイ・ホ・ティエップ	ベトナムダナン市外務局ダナン駐日代表部
山本 信也	一般財団法人 日本青年館常務理事
結城 光夫	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター所長代理

※座長

事務局

山本 光則	財団法人 育てる会事業部長
武市 正幸	財団法人 育てる会東京本部総務部主幹
秋山 雅光	財団法人 育てる会東京本部事業部主幹
野高 健司	財団法人 育てる会八坂美麻学園主任指導員

平成25年度文部科学省委託事業

青少年教育施設を活用した国際交流事業

「信頼と交流の輪を未来へ ～国際交流プロジェクト～」

活動実践報告書

平成26年2月

発行：財団法人 育てる会
〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-6-7 朝日生命ビル5F
TEL:0422-56-0151/FAX:0422-56-0351 mail:mado@sodateru.or.jp
http://www.sodateru.or.jp

印刷：株式会社 文伸

